



生物多様性おやま地域連携保全活動計画

～身近な場所の生きものをふやし、 みんなに伝えよう！～

目 次

1. 計画の概要	
(1) 計画の目的	…1
(2) 計画の期間	…1
(3) 計画の位置付け	…2
2. 個別プロジェクト	
(1) トキ・コウノトリをシンボルとしたエコミュージアム化 実践プロジェクト	…3
(2) おやま生きものデータ・バンク実践プロジェクト	…6
(3) おやま里山保全・活用実践プロジェクト	…9
(4) まちなかビオトープ実践プロジェクト	…12
3. 市全体としての連携保全活動の展開	…15
＜参考＞	
・生物多様性おやま実践プロジェクト（協議会）名簿	…17
・関係団体の取組概要シート	…18

1. 計画の概要

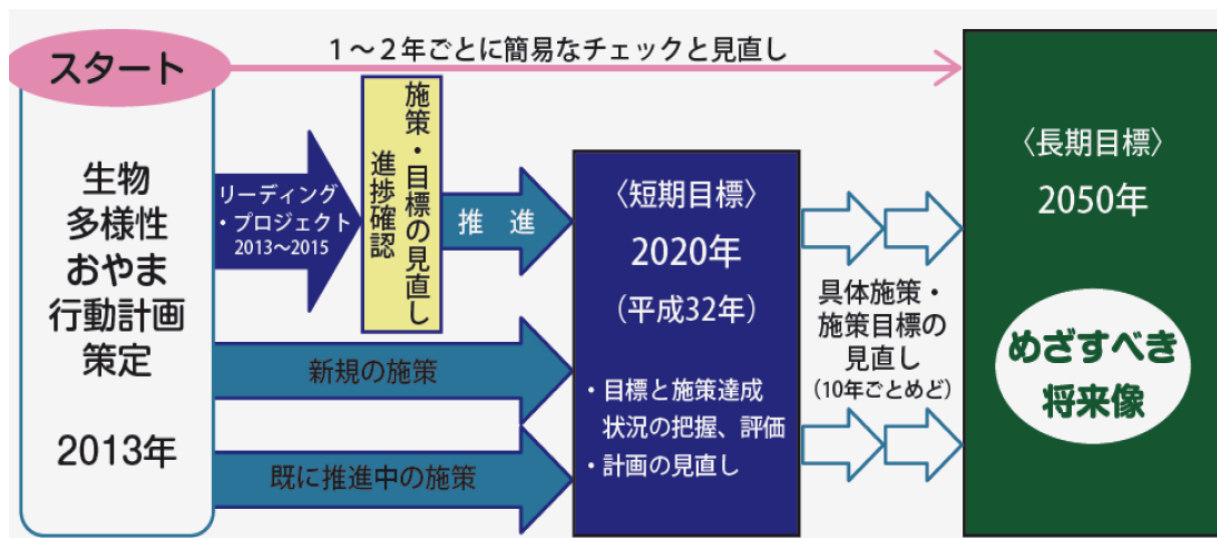
(1) 計画の目的

小山市の人と情報をつなげることによって、足元から自然を守り・変えていきます。

- 「生物多様性おやま行動計画」の取組を先導する4つのリーディング・プロジェクトをテーマとした取組の推進をはかります。
- 市内の生物多様性に係る活動団体の活動情報を集め、広く市民に周知します。
- 「生物多様性おやま行動計画」を周知 PR し、小山市の生物多様性に係る方向性を共有します。
- 市民が主体となった取組を進めていくための課題について、実際に活動している団体等と意見交換を行い、今後について考えます。

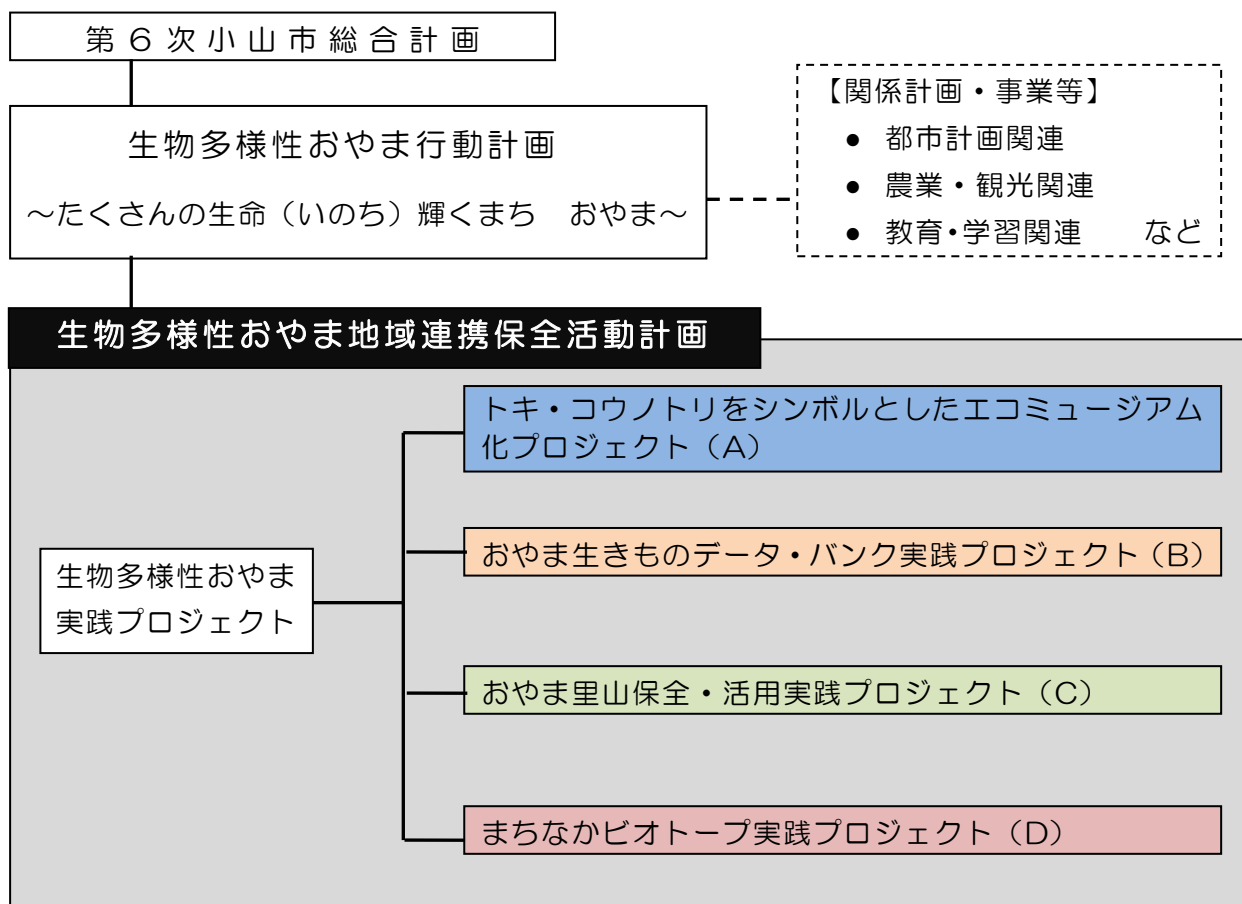
(2) 計画の期間

リーディング・プロジェクトの推進期間である 2015 年までの2ヶ年を取組の期間とします。



(3) 計画の位置付け

「生物多様性おやま地域連携保全活動計画」は、市民・学識者・教育関係機関等、多様な主体との連携・協働により、「生物多様性おやま行動計画」をモデル的に推進していく計画として、小山市のまちづくりを進める様々な計画・事業等との整合・連携をはかりながら進めていくものとします。



※実践プロジェクトごとに取組を進めるとともに、市全域への周知・PR、普及・啓発をはかるための仕組みづくりや、取組を推進する支援制度について、検討・試行をはかっていきます。

2. 個別プロジェクト

トキ・コウノトリをシンボルとした エコミュージアム化実践プロジェクト

(1) 活動目的

トキやコウノトリがすめる自然を守り・育み・活かしながら、地域が活性化する「渡良瀬遊水地および周辺地域のエコミュージアム化」の実現をめざします。

(2) 活動エリア

渡良瀬遊水地第2調節池および周辺地域（生井地区等）

(3) 現状の活動と課題

■現状の活動

- ・旧思川整備計画の策定に向けて整備内容を提案している。
- ・渡良瀬遊水地第2調節池および周辺地域の賢明な活用に向けて、検討している。

■課題

- ・自然の保全・再生と必要なインフラ整備のバランスをとるのが難しい。
- ・渡良瀬遊水地第2調節池および周辺地域では、ずいぶん生き物が減ってしまった。
- ・旧思川には外来種が増えた。
- ・住民でも地元について知らないことが多い。今後、学んでいく必要がある。
- ・地域外に出て行った人にまだ戻ってきてもらいたい。

(4) 目標・取組内容・ロードマップ

■目標 1：地域の魅力を再発見する！

取組①：本格的なエコミュージアム化に向けた基盤づくりとして、地域住民を巻き込んだ地域資源の発掘「地域の宝探し（資源発掘ワークショップ）」（数回開催）を行い、地域の魅力を再発見し、マップとしてまとめる。

取組②：地域の宝マップの作成・印刷・配布

※今後に残していきたいもの、再生していきたいもの、新たにつくりたいものについて、ワークショップ形式で検討

※渡良瀬遊水地第2調節池の管理・活用の検討も含む

※取組に興味を持ってくれ、継続的に参加してくれる人の発掘も行う

■目標 2：旧思川の外来種について学ぶ！

取組①：地域住民が外来種について学ぶ機会として、旧思川の外来種（魚類）の駆除体験を実施する（2回開催）

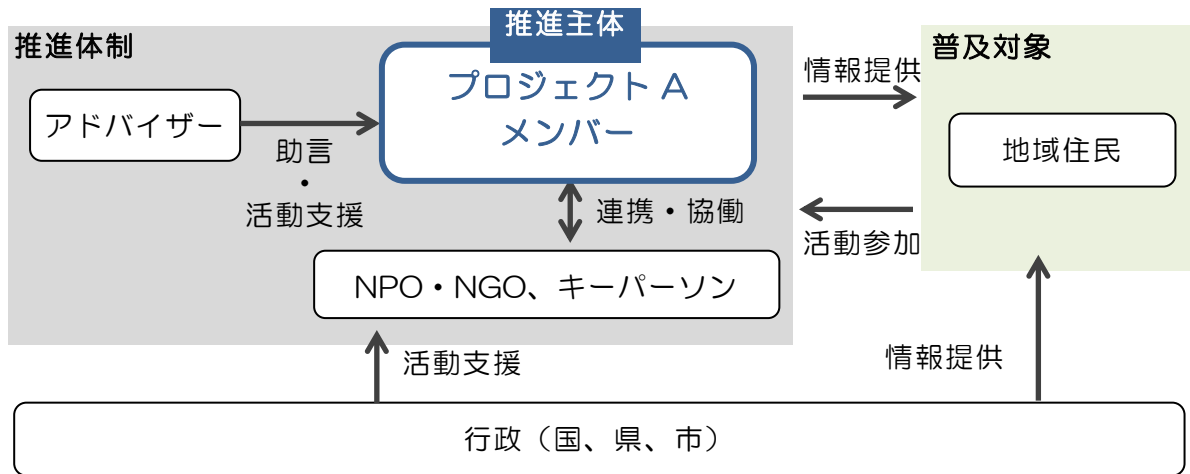
※食材等としての活用方法についても検討

■ロードマップ

取組内容	平成 26 年度	平成 27 年度	それ以降
目標 1：地域の魅力を再発見する！			
取組①：地域住民を対象としたワークショップ「地域の宝探し」の開催	●	●	
取組②：地域の宝マップの作成・印刷・配布	●	●	
目標 2：旧思川の外来種について学ぶ！			
取組①：地域住民を対象とした旧思川の外来種の駆除体験の実施	●	●	●

（５）推進体制

市民団体を中心に、取組を支援する行政や学識者のほか、地域の関係主体（取組の中心を担える地域住民を含む）と連携・協働を進めていきます。



（６）取組を進める上での課題

- ・ 経費（地域宝マップの編集・印刷費用）の確保に向けた具体的検討
- ・ 住民参加で実施できる外来種駆除内容の検討
- ・ 地域住民への効果的な普及方法
- ・ 情報発信に際する行政（市）への情報提供、HP への情報掲載に関する協力依頼

おやま生きものデータバンク

実践プロジェクト

（１）活動目的

既存の生きものデータや、生きものを守る・増やす活動をベースとして、身近な生きものを増やす取組を進めます。

（２）活動エリア

下記の２エリアを活動エリアとして想定します。

- 中地区一帯（巴波川沿いを中心とした水田、水路、中小学校等）
- 思川および思川流域（観晃橋～新黒本橋）

（３）現状の活動と課題

■ 現状の活動

- ・ 土地改良組合の中でも生態系を活かした整備について話し合っており、施設に余裕を持たせることによって、生きものの生息する空間づくりや空間の連続性、つながりの確保などの工夫を試行している。
- ・ 思川の自然観察やイベント時における普及等に取り組んでいる。

■ 課題

- ・ 圃場整備の際に生きものの生息空間をどう残す、作るかが課題。
- ・ 全域での配慮は無理でも一部での工夫を行っていく必要がある。
- ・ 市内を流れる思川の水質に差がみられ、その原因を確認・改善したい。
- ・ 取組を推進するための経費確保（特に人件費）が課題。

(4) 目標・取組内容・ロードマップ

目標1：中地区全体の生きものの多様性を向上する！

- 取組①：土地改良の機会を活かした水路等における生きものの生息空間づくり
 取組②：改良水路および田んぼの生きものの調査の実施
 取組③：調査結果のとりまとめと、インターネット等を活用した情報発信の実施。
 取組④：農地水（農水省）助成金活用の検討、活用

目標2：.思川の生きものを増やす！

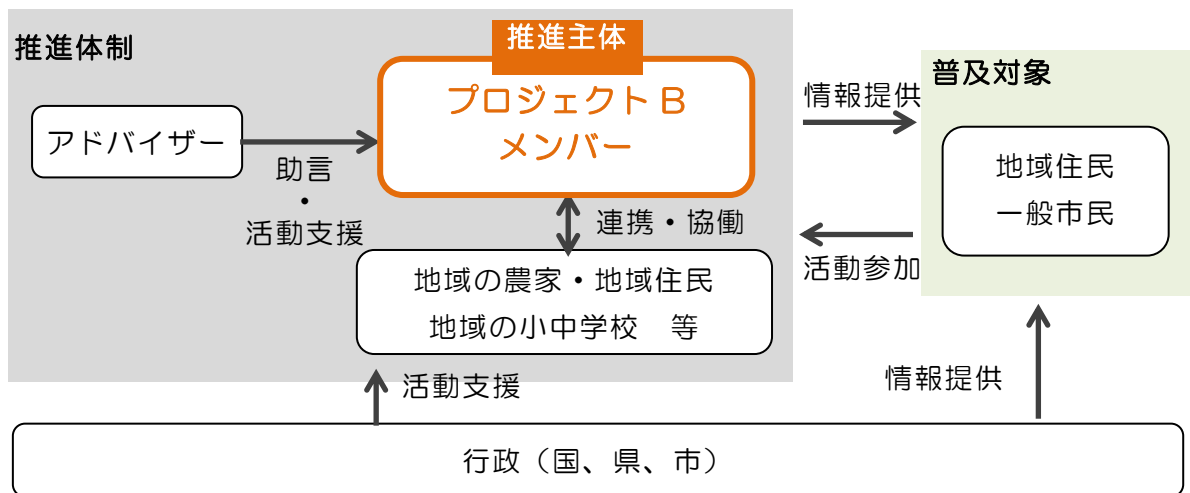
- 取組①：思川の水質調査（簡易水質検査）の実施
 取組②：思川の生きものの調査の実施
 取組③：調査結果のとりまとめと、インターネット等を活用した情報発信の実施。
 取組④：調査結果を受けた改善策の検討

■ロードマップ

取組内容	H26 年度	H27 年度	それ以降
目標1：中地区全体の生きものの多様性を向上する！			
取組①：土地改良の機会を活かした水路等における生きものの生息空間づくり		●	
取組②：改良水路および田んぼの生きものの調査の実施	●	●	●
取組③：調査結果のとりまとめと、インターネット等を活用した情報発信の実施。		●	●
取組④：農地水（農水省）助成金活用の検討・活用	●	●	●
目標2：思川の生きものを増やす！			
取組①：思川の水質調査（簡易水質検査）の実施	●		
取組②：思川の生きものの調査の実施			
取組③：調査結果のとりまとめと、インターネット等を活用した情報発信の実施。	●	● ●	
取組④：調査結果を受けた改善策の検討		●	●

（５）連携・推進体制

それぞれ、現在取組を進めている市民団体を中心に、取組に係るステークホルダーおよび広く地域づくりに係る多様な主体とのコミュニケーションに努めるとともに、取組メニューごとの必要性に応じた連携・協働をはかっていきます。



（６）取組を進める上での課題

- ・ **経費**（水質検査パック、資材費、アドバイザー等謝金、打合せ等行う会場費等）の確保に向けた具体策の検討（農水省の交付金活用の検討、沿川企業への支援呼びかけの実施、不用品提供を地区等によびかけフリーマーケット等で販売することによる資金づくり等）
- ・ 生きもの調査、水質等に係る 専門的な知識や技術的な助言 の確保（アドバイザー派遣の依頼）
- ・ 既存の情報活用、情報発信 に際する行政（市）への情報提供、HP への情報掲載に関する協力依頼

おやま里山保全・活用 実践プロジェクト

（１）活動目的

市民主体による里山保全・活用の取組の発信し、市全体への取組の拡充をはかります。

（２）活動エリア

東島田地区、鉢形地区、乙女地区を中心に、現在、維持管理活動が行われている平地林を対象とします。

（３）現状の活動と課題

■現状の活動

- ・里山を維持管理する市民団体が個別に活動を実施している。
- ・活動内容としては下草刈りや清掃活動のほか、里山の魅力を市民に伝えるイベントを開催している。
- ・「とちぎ元気な森づくり県民税事業」など行政の補助金を活用しながら、管理作業を実施している。

■課題

- ・市民団体間の交流はほとんどない。
- ・市内の平地林のほとんどが私有地であり、所有者の高齢化により、管理されずに放置される平地林が増加していることが課題。
- ・市民が里山を訪れる機会はほとんどない。
- ・現状を把握し、よりよい里山を目指した管理作業を実施したいが、状態が詳しくわかる人、作業を指導できる人がいない。
- ・平地林所有者の中には、補助金の存在を知らない人も多い。

(4) 目標・取組内容・ロードマップ

目標 1：市民団体間の交流を深める！

- 取組①：市民団体の意見交換会の開催
- 取組②：里山（平地林）の生きもの調査の実施
- 取組③：作業方法と活用にむけた勉強会を開催
- 取組④：インターネットを活用した取組や調査結果の情報発信の実施

目標 2：市民に里山の管理作業やイベントに参加してもらう！

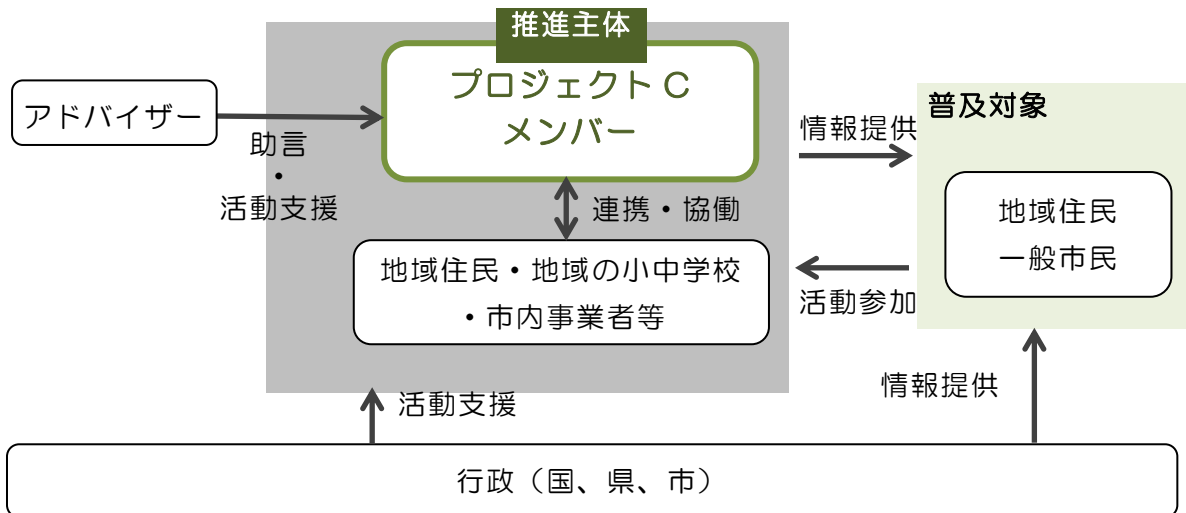
- 取組①：市民参加型の作業体制の検討
- 取組②：市民参加による管理作業の試行
- 取組③：インターネット、市報を活用した作業告知と報告の実施

■ロードマップ

取組内容	平成 26 年度	平成 27 年度	それ以降
目標 1：市民団体間の交流を深める！			
取組①：市民団体の意見交換会の開催	●	●	●
取組②：里山（平地林）の生きもの調査の実施	●	●	
取組③：作業方法と活用にむけた勉強会を開催	●	●	
取組④：インターネットを活用した取組や調査結果の情報発信の実施			●
目標 2：市民に里山の管理作業やイベントに参加してもらう！			
取組①：市民参加型の作業体制の検討	●		
取組②：市民参加による管理作業の試行		●	●
取組③：インターネット、市報を活用した作業告知と報告の実施		●	●

（５）連携・推進体制

それぞれの市民団体を中心に、取組を支援する行政や学識者のほか、地域の関係主体との連携・協働を進めていきます。



（６）取組を進める上での課題

- **経費**（資材費、アドバイザー等謝金、打ち合わせを行う上での会場費等）の確保に向けた具体的検討（グランドワーク基金・とちぎの元気な森づくり県民税事業の活用、周辺企業への支援の呼びかけの実施等）
- 生きもの調査に係る専門的な知識や技術的な助言の確保（アドバイザー派遣の依頼）
- **情報発信**に際する行政（市）への情報提供、HP への情報掲載に関する協力依頼

まちなかビオトープ 実践プロジェクト

（１）活動目的

小山市のまちなかの生物多様性を向上させる「田んぼの学校」等の取組を情報共有し、市内への普及を図ります。

（２）活動エリア

市内全域（学校、公園、市役所を含む公共施設に限る）

（３）現状の活動と課題

■現状の活動

- ・ 水田や学校ビオトープをフィールドとした米づくり体験や生きもの調査の実施
- ・ 生きものマップの作成
- ・ 学園祭や道の駅での成果の発表
- ・ 地域内外との連携（地域住民による活動の指導、先進地の視察）

■課題

- ・ 外来種の駆除
- ・ 冬期における水の確保
- ・ 活動のマンネリ化
- ・ 他の教育活動とのバランス
- ・ 他校への取組の情報共有および情報発信・受信

(4) 目標・取組内容・ロードマップ

■目標 1 : 「田んぼの学校」等の取組を市内に普及する！

取組①：小山市内の「田んぼの学校」、「学校ビオトープ」に関する取組の整理

取組②：事例集の作成・印刷・配布

小山市内の「田んぼの学校」の取組をまとめ、冊子を作成します。

※田んぼの学校に関わる児童、教師、指導者（農家）の声などのヒアリング

■目標 2 : 誰でも気軽にビオトープを体験できる、みんなのビオトープをつくる！

取組①：公共施設内における簡易のビオトープの創出

※発泡スチロール製の箱やプラスチック製のコンテナを活用した「箱ビオトープ」づくり（2015 年度に向けた小規模ビオトープ）

※様々な植物の種が含まれている渡良瀬遊水地の土を用いたビオトープづくりを行います。

取組②：公共施設内におけるモデルビオトープの計画づくり

※「田んぼの学校」在籍の児童共同によるビオトープ計画づくり（将来の創出に向けた大規模ビオトープ）

取組③：児童による取組成果の発表会の開催

■ロードマップ

取組内容	平成 26 年度	平成 27 年度	それ以降
目標 1 : 「田んぼの学校」等の取組を市内に普及する！			
取組①：小山市内の「田んぼの学校」、「学校ビオトープ」に関する取組の整理	●	●	
取組②：事例集の作成・印刷・配布		●	
目標 2 : 誰でも気軽にビオトープを体験できる、みんなのビオトープをつくる！			
取組①：公共施設内における簡易ビオトープの創出	●	●	●
取組②：公共施設内におけるモデルビオトープの計画づくり	●	●	●
取組③：取組成果の発表会の開催		●	●

（５）連携・推進体制

「田んぼの学校」実践校・地元団体を中心に、取組を支援する行政や学識者のほか、地域の市民団体等との連携・協働を進めていきます。



（６）取組を進める上での課題

- ・ 経費（ビオトープづくりの資材費、事例集の編集・印刷費用）の確保に向けた具体的検討
- ・ 小学校の既存の教育活動との調整
- ・ 公共施設敷地内等におけるビオトープ設置場所の確保
- ・ 情報発信に際する行政（市）への情報提供、HP への情報掲載に関する協力依頼

3. 市全体としての連携保全活動の展開

おやま実践プロジェクトをモデルとして、市民や市民団体が主体となっていく活動を小山市全域に広げていくため、取組を支援する次の各取組の検討、推進をはかります。

（１）生物多様性に係る情報の収集・発信

小山の生物多様性や自然、および関連する活動等の情報を一元的に発信するホームページの開設・活用について検討、推進します。

情報発信について、次のような取組を検討・推進します。

- 生物多様性や自然に係る情報を発信するサイトを市ホームページ上に開設し、市民団体の活動に関する情報発信の場として活用できる仕組みづくりの検討
- サイトを通じた生物多様性の基礎情報、小山市の自然や生物多様性の現状、課題、市や市民団体の行っている取組やイベント情報等についての発信
- 市民団体等からの市内の生きものに関する情報を寄せてもらう仕組みづくりの検討

（２）専門知識・技術面における支援

取組を行うにあたって必要となる専門的な知識や技術に関して、次のような支援策を検討、推進します。

次のような支援を検討・推進します。

- 生きものや生態系、農業等に係る知識や、調査や管理・改善策を行う場合に必要となる技術に関する専門家をアドバイザーとして派遣する、あるいは紹介する。
- 類似の取組事例の情報を提供する。

※生物多様性に係る活動は、生きもののつながりを通じて広域的に影響を及ぼす可能性もあることから、新たな取り組みを行う際や壁にぶつかった時などには、専門家による指導・アドバイスを仰ぐことができる支援制度、仕組みが必要です。

（３）市民団体同士の交流の場づくり

ひとりが、活動について目的意識を持ち続けることが必要です。そのためには、生物多様性に係る取組を行っている団体・機関等が、定期的に集まり、情報や意見を交換・交流することによって、相互に刺激を受け、相談にのり、活動の意欲やヒントを得たり、連携・協力の機会を作ることが可能となります。そうした、関係団体等の交流・協議の場づくりを行っていくことが必要です。

実践プロジェクトを年１～２回開催し、団体間の情報および意見の交換・共有の場づくりを行います。

（４）経費の確保

活動団体の個人的な負担に頼らず、効果的な活動を継続的にしていく上では、活動の経費は不可欠です。行政・企業等による支援制度や、自らの活動を通じた資金づくりなどによる活動経費の確保や、経費を抑える運営上の工夫など、活動を経費面で支える為の手段を確立していくことが必要です。

市民団体等が活動に必要な経費を確保するための支援について検討・取組をはかります。

- 国、県、企業等による活動助成金情報の収集・提供
- 活動資金補助制度等、費用面における市民等活動の支援のしくみづくりの検討
- 活動を通じた経費の確保に係る事例等の情報提供

＜ 参 考 資 料 ＞

■生物多様性おやま実践プロジェクト（協議会）名簿

＜アドバイザー＞

プロジェクト	所属団体等	氏 名
A	渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会代表 日本野鳥の会栃木代表	高松 健比古
B	コウノトリ・トキの舞うふるさとおやまをめざす 会会長	浅野 正富
C	小山市緑化審議会会長 桑自然文化会	金森 定敏
D	わたらせ未来基金代表 作新学院大学女子短期大学部教授	青木 章彦

＜参加団体＞

プロジェクト	団 体 名	活動シート
A	渡良瀬遊水池治水推進・ラムサール賢明な活用・周辺整備推進期成同盟会	A－①
B	思川に思いをはせる会	B－①
	ほたる飛び交う中地区をめざす運動	B－②
	小山めだかの学校	B－③
C	乙女磯宮農村環境保全会	C－①
	社会就労センターえいぶるの里	C－②
	憩いの森・HACHIGATA	C－③
D	梁小田んぼの学校	D－①
	延島っ子田んぼの学校	D－②
	寒川小学校田んぼの学校	D－③
	寒川尼と古代米の里づくり実行委員会	
	穂積小学校田んぼの学校	D－④
	中小学校田んぼの学校	D－⑤
	間々田東小学校田んぼの学校	D－⑥

■関係団体の取組概要シート

プロジェクトA-①

1. 団体名	
渡良瀬遊水地治水推進・ラムサール賢明な活用・周辺整備推進期成同盟会	
2. 活動エリア	
渡良瀬遊水地第2調節池およびその周辺	
3. 活動目的	
渡良瀬遊水地第2調節池の治水推進、治水機能確保を優先とした「エコミュージアム化」・「トキ・コウノトリの野生復帰」・「環境にやさしい農業を中心とした地場産業の推進」の賢明な活用並びに、渡良瀬遊水地周辺整備を推進し、「多くの人を小山市に呼び込み」地域の活性化を図ることを目的とする。（規約第2条）	
4. 活動内容	
1. 関係機関に対し、目的の早期実現の運動を推進すること 2. 目的達成のための調査、研究並びに連絡、協議に関すること。 3. その他、本会の目的達成に必要な事業 ※目的達成に向けて、「治水推進・エコミュージアム化部会」、「トキ・コウノトリ野生復帰部会」、「環境にやさしい農業推進部会」、「渡良瀬遊水地地域活性化部会」の4つの部会を設置。（規約第3条および第6条）	
5. 活動人数	
総人数 約 50 人（実質活動人数 人） ※会長 1 名、副会長 4 名、会計 2 名、監事 4 名、理事 4 0 名以内	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
小山市渡良瀬遊水地ラムサール推進室	事務局運営
7. 活動に関する課題・悩み	
—	
 渡良瀬遊水地（第2調節池）	

プロジェクトB-①

1. 団体名	
ほたる飛び交う中地区を目ざす運動の会	
2. 活動エリア	
中小学校及び巴波川	
3. 活動目的	
巴波川にほたるを甦らす	
4. 活動内容	
ほたるの会ボランティア、学校、PTA、自治会、中公民館などの協力をえて、中小学校の児童と共に、①田植え、②中地区ほたるを観る会、③稲刈り、④脱穀、⑤蛍橋周辺の清掃とカワニナ、ほたるの幼虫の放流などを行っています。 ほたるの会に関しては、Ⅰ飼育班（ほたるの卵からの飼育と放流）、Ⅱ施設班（ほたるのビオトープ、水辺のビオトープなどの修理管理）、Ⅲ広報班（年2回「うずまのほたる」の発行）、Ⅳ教育班（ほたる籠作りなど）を行っています。 中小児童と共に会員がほたるを通して自然環境の大切さを学び、地域協力・団結の輪を広げ、中小の子供の健全な成長を目ざしています。	
5. 活動人数	
総人数 60 人（実質活動人数 30 人）	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
—	—
7. 活動に関する課題・悩み	
—	
  中小学校でのビオトープづくり	

プロジェクトB-②

1. 団体名		
思川に思いをはせる会		
2. 活動エリア		
思川 河川敷		
3. 活動目的		
思川に関心のある市民や市民団体の交流活動や思川との触れ合いを通じて、思川に対する愛着や誇りを持つ、思川を楽しむためのリーダーを育て、ひいては思川の魅力向上に寄与することを目的とする。（会則第1条）		
4. 活動内容		
思川清掃（年4回） 野鳥観察（年2回） 野草採取・食する会 鮎（参加者公募） 思川アユ祭り参加 小山一夜御殿まつり参加 おやまブランドまつり参加 思川上流・下流を訪ねる 思川自然観察会（参加者公募）	} 水槽による魚展示	
5. 活動人数		
総人数 90 人（実質活動人数 50 人）		
6. 連携団体の有無		
連携団体名	連携して実施している内容	
—	—	
7. 活動に関する課題・悩み		
・ 活動参加者の固定化 ・ 一般への会の存在・活動の PR 推進		
		
食べられる野草の観察	思川の清掃活動	
(出典：小山市ホームページ)		

プロジェクトB-③

1. 団体名	
小山めだかの学校	
2. 活動エリア	
小山市内全域（用排水路）	
3. 活動目的	
小山市内に生息するメダカを通じて、住みよい環境作りの活動	
4. 活動内容	
1. メダカの生息調査 2. メダカ生息の保全に関する活動 ・絶滅・減少の危機に瀕する場合は捕獲、増殖、移動等の実施 3. 農村地域の環境保全活動への参加、普及促進の実施 4. 研修会その他目的達成に必要なもの 5. 市内の各イベントに参加し、生物に触れ合い、環境保全の大切さを感じてもらう。	
5. 活動人数	
総人数 70 人（実質活動人数 20 人）	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
①めだか里親の会 ②思川に思いをはせる会 ③小山市美田東部土地改良区	①県内のメダカ調査及び水田魚道の設置等 ②各イベントに参加して生物の提供 ③改良区の体験ハウスに生物の飼育・実施とガラスの水槽等の借用と手伝い
7. 活動に関する課題・悩み	
・地域の取組にかかわる対応と連携がかみ合わない。 ・中堅については時間がない。又、人材不足である。	
	
(出典：小山市市民活動センター ホームページ)	

プロジェクトC-①

1. 団体名	
乙女磯宮農村環境保全会	
2. 活動エリア	
(乙女地区)	
3. 活動目的	
・まちづくりの一環として、里山整備を整備する	
4. 活動内容	
1. 里山整備 (ゴミ拾い、枯れ木・倒木の片付け、下草刈りなど)	
5. 活動人数	
—	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
老人会、青壮年会等	—
7. 活動に関する課題・悩み	
—	
 	

プロジェクトC-②

1. 団体名	
社会就労センター えいぶるの里	
2. 活動エリア	
東島田ふるさとの森（東島田地区）	
3. 活動目的	
・施設利用者の仕事の一環として、里山をきれいにする	
4. 活動内容	
1. 駐車場、通路、森内のゴミ拾い 2. 東屋の清掃 3. 落ち葉掃き 4. 雪かき （草刈、枝打ちなどの管理は業者に委託している）	
5. 活動人数	
—	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
—	—
7. 活動に関する課題・悩み	
・枯れ葉や枯れ枝を有効利用する方法 ・森の中に植えられた思川桜が古くなり、折れる木が増えているが、新たに移植すべきなのか、その場合はどのような樹種を移植すべきなのか ・トイレがないことベンチなどの施設の老朽化などに伴う来訪者の利用方法	
 	
東島田ふるさとの森	

プロジェクトCー③

1. 団体名	
憩いの森・HACHIGATA	
2. 活動エリア	
オープンガーデン 憩いの森鉢形 (合計約 2ha : 里山林林 1ha、竹林 0.6ha、畑・果樹園 0.4ha)	
3. 活動目的	
・ 自然観察会 ・ 森林管理士による森林・竹林の整備 ・ 森林セラピー基地化への取組み	
4. 活動内容	
1. 児童・保護者を集めて (環境学習会、木工工作、街中と森林環境中の温度測定と比較、森林セラピーロード、手作り遊具の設置、どの月に生き物が見られるかを示した憩いの森の昆虫(7~8月にカブトムシ 100匹)・山野草(3月中旬にアズマイチゲ群落 30a)カレンダー、ピザ釜完成、もちつき大会、ブルーベリー摘み、干し柿づくり) 2. 元気な森づくり事業 3. 会員による定例会	
5. 活動人数	
—	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
—	—
7. 活動に関する課題・悩み	
—	
	

プロジェクトD-①

1. 団体名	
梁小田んぼの学校	
2. 活動エリア	
梁小学校周辺	
3. 活動目的	
—	
4. 活動内容	
※総合的な学習の時間を活用して5年生が中心となって活動を実施 ・種もみひたし、種まき（4月） ・田植え（5月）※全児童および小山二小の5年生児童と一緒に実施 ・稲刈り（9月）※全児童および小山二小の5年生児童と一緒に実施 ・ビオトープ管理	
5. 活動人数	
—	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
地元ボランティア	米づくりの指導
7. 活動に関する課題・悩み	
—	
	
田植えの様子	ビオトープ看板の新設 （出典：梁小学校ホームページ）

プロジェクトD-②

1. 団体名	
延島っ子田んぼの学校	
2. 活動エリア	
延島小学校周辺 ※田植え・稲刈りは校舎南側の個人所有の水田、生き物調査は延島上公民館周辺の水路で実施	
3. 活動目的	
幼小連携による「田んぼの学校」の推進により、人間関係づくりの基礎となるコミュニケーション力、規範意識、責任感、自尊感情を養い、地域の方々にお世話になりながら実施する事で感謝の気持ちを育てる。又、様々な生き物が生息する延島地区は、米づくりにとってもよい環境である事に気づかせ、地域の自然を大切にしていこうとする態度を育てる。	
4. 活動内容	
1. 延島っ子田んぼの画工開校式・田植え（5月） ※全児童、のぶしま幼稚園、実行委員約40名、保護者、教職員が参加 2. 生き物調査（7月）※全児童、実行委員約30名、保護者、教職員が参加 3. 稲刈り（9月）※全児童、のぶしま幼稚園、実行委員約40名、保護者、教職員が参加	
5. 活動人数	
総人数 194人（実質活動人数 170人）	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
①のぶしま幼稚園 ②メダカ里親の会（事務局長：中茎元一氏）	①田植え・草刈りで、高学年児童とペアをつくり、一緒に活動している。 ②生き物調査で、生き物の捕獲の仕方を教えていただいたり、延島地区に生息する生き物について、専門的な立場からお話を伺ったりしている。
7. 活動に関する課題・悩み	
・田んぼの学校の取り組みが3年目となり、やや活動がマンネリ化してきた。子どもたちがさらに興味を持ち、楽しく活動できるような工夫が必要だと感じている。 ・子ども達の学習がやや受け身になっているのが課題。「活動あって、学びなし」の状態にならないように、学年の実態に即して自主的に取り組めるよう内容を見直していきたい。	
 生き物調査の様子  作成した生き物マップ	

プロジェクトDー③

1. 団体名	
寒川小学校田んぼの学校／寒川尼と古代米の里づくり実行委員会	
2. 活動エリア	
寒川小学校およびその周辺 ※小学校内の水田およびビオトープ、ただし生きもの調査は地区内の水田で実施	
3. 活動目的	
古代米づくりやメダカの調査等の体験をととして、地域の環境を考える。	
4. 活動内容	
学校内 1. 古代米の播種・田植え・ぬかまき・草取り・稲刈り・はで掛け・脱穀等の体験 2. 古代米炊飯（小山市立博物館出前授業で、弥生土器で薪を使い炊飯） 3. 収穫後の藁を活用したしめ縄づくり 4. ビオトープのメダカの観察 5. 寒川地区の自然環境の理解 地区内 1. 生き物調査（農地・水保全管理支払交付金事業） 2. マリーゴールド苗植え（公民館周辺の用水路沿い） 3. ビオトープの整備 4. どんどん焼き 5. 広報紙の発行	
5. 活動人数	
総人数 86 人（実質活動人数 一人） ※総人数の内訳は、実行委員 73 名、5 年生児童 13 名。実質活動人数については、実行委員全員がそれぞれの分野で活動（古代米管理部、ビオトープ部、教育部、広報部、総務部）	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
① J A 寒川支店・思川西部土地改良区・寒川公民館・自治会・寒川地区振興協議会 ② NPO 法人オリザネット等	① 実行委員としての参加 ② 生き物調査の実施
7. 活動に関する課題・悩み	
・ 11 年目で実行員が新編成された。当初、戸惑いがあったが、現在は回っている。ただし、新組織再編の際、各組織の職により役割を決定することにしたので、4 年ごとにメンバーが替わることになる。 ・ 行事としての農作業の大切な部分は、実行委員が行ってくれるが、毎日の田んぼやビオトープの水の管理に神経を使う。 ・ ビオトープ周辺の木材等の痛みをなかなか改修できない。 ・ 「田んぼの学校」としての行事があり、授業時数に負担がある。 ・ 本校は、5 年総合としての実施であるが、稲作りに終始してしまいがちな現状がある。学習のねらいに沿って、活動を考えていく必要がある。	

プロジェクトDー④

1. 団体名	
穂積小学校田んぼの学校	
2. 活動エリア	
3. 活動目的	
田植えや稲刈りを体験することで稲作に関心を持ち、一粒のお米の大切さに気づくこと、また、田んぼは多くの小さな生き物の命を育んでいることを知ること。異学年の友だちと仲良く助け合うこと。また、田んぼの学校に力を貸してくださる多くの方々や稲を育ててくれる自然に感謝すること。	
4. 活動内容	
・ 田植え・稲刈り ・ さなぶり給食（地場産物を利用した給食） ・ かかしコンクールの開催 ・ 生き物調査 ・ 学校祭「お一米スクールフェスティバル」の開催	
5. 活動人数	
—	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
農地・水・環境保全組織	生き物調査の実施
7. 活動に関する課題・悩み	
—	
 生きものの調査の様子	 稲刈りの様子 （出典：穂積小学校ホームページ）

プロジェクトDー⑤

1. 団体名	
中小学校田んぼの学校	
2. 活動エリア	
中小学校	
3. 活動目的	
田んぼの活動をととして、自然や環境を大切にしようとする心情を育て、地域との連携を深める。	
4. 活動内容	
1. 田植え（5月） 2. 田の草刈り（6月～7月） 3. 稲刈りおよび脱穀（9月） 4. 収穫祭（11月）※学園祭と併せて開催	
5. 活動人数	
総人数 76人（実質活動人数 約40人）	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
ほたる飛び交う中地区を目ざす運動の会	ホタルの飼育活動、「ほたるを観る会」の実施（毎年6月上旬）、田んぼの学校への支援
7. 活動に関する課題・悩み	
・ボランティアの高齢化	
 田植えの様子	 稲刈りの様子

（出典：中小学校ホームページ）

プロジェクトDー⑥

1. 団体名	
間々田東小学校田んぼの学校	
2. 活動エリア	
間々田東小学校周辺	
3. 活動目的	
自然に親しみ、米づくりの大変さ・楽しさ・大切さと知り、地域への愛着を持つ。	
4. 活動内容	
1. 田植え ※総合的な学習の時間を活用して5年生が実施 2. 稲刈り ※総合的な学習の時間を活用して5年生が実施 3. 水生生物の観察 ※生活科の授業を活用して2年生、理科の授業を活用して4年生が実施	
5. 活動人数	
総人数 440人（実質活動人数 315人）	
6. 連携団体の有無	
連携団体名	連携して実施している内容
—	—
7. 活動に関する課題・悩み	
・児童および教員の負担過重にならないように、他の教育活動のバランスの確保 ※本来必要な教育活動に支障が出ないように配慮して実施している	
	
田植えの様子	水生生物の観察の様子
(出典：間々田東小学校ホームページ)	